

浜私幼

(公社)横浜市幼稚園協会 協会報 No285

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行
 〒221-0055
 横浜市神奈川区大野町1-25
 横浜ポートサイドプレイス
 アネックス5F
 電話 045 (534) 8708
<https://www.kids-yokohama.or.jp>
 編集 横浜市幼稚園協会広報部
 発行者 清水純也
 印刷所 株式会社横濱大気堂



公益社団法人
 横浜市幼稚園協会
 会長 清水純也

協会長からのご挨拶

2人の 脳科学者から 学んだこと

2学期がスタートし、ようやく秋らしくなってくるころかと思えます。お子さんは新しい園やクラスに慣れているでしょうか。運動会等を経験し、友だちとの輪も深まる季節ではあります。一方では、まだ不安な気持ちでいるお子さんもいるかもしれません。子どもは大人をよく見ています。私たち教職員も保護者の皆さまもその様な子どもたちに悟られないよう明るく励まし、安心して登園できるようになって欲しいと願っています。

この夏に参加させていただいた研修会の報告をさせていただきます。

(公社)神奈川県私立幼稚園連合会の第63回神奈川県私立幼稚園教育研究全県大会と、全日本私立幼稚園連合会の関東地区大会群馬大会に参加してきました。

いずれも別の脳科学者の講演でした。メディアにも出られている先生が私たち現場に対してどのようなお話をされるのかとても楽しみでした。お二人の共通したお話で私が特に興味を持ったことは…積極的に事象に関わり自分で判断して成功したときにドーパミンが多く分泌され脳が成長する、脳と身体は一体なので一緒に身体も成長するという内容でした。その成功体験が自己肯定感を育み、子どもの時に身につけた自己肯定感は継続されるということです。しかも!大人になってからでも高めることができると分かっているとのお話があり、私たち大人もあきらめなくていい

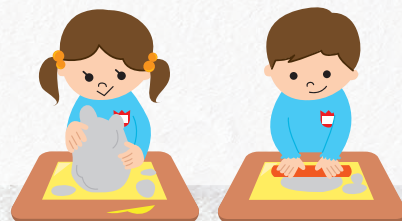
と感じられました。

私の体験談ですが、粘土で何かを作っている子どもに「見て!」と言われたとき「おお上手だね~かっこいいね~」と答えることが多くあります。しかし、子どもは私の評価をもらいたいのではなく、私がどう感じるかを伝える方がいいとお話でした。「この形、先生とっても好きだよ!」などと子どもと一緒に喜ぶことが大切だと伺いました。

また、乳幼児期の子どもたちには大人は安全基地として存在することが、安心・安全のベースになり自らチャレンジできる人になれるということでした。子どもにとって大切な人が見てくれない中での行為は、その大切な人が存在していないことと同じだと言われ、我が子を思い出してしまいました。

戦後まもなくは物の生産性を上げるために、言われたことをできる人を育てることに重きが置かれたプログラム中心だったそうです。これからの時代を担う子どもたちには、自ら考え、判断し、成長し続ける人になるために、私たち大人が何でも結果ありきで関わるのではなく、答えや情報を隠して、子どもが自ら悟れる機会をより多く作ってあげたいと感じました。

横浜市幼稚園協会では、保護者の皆様および幼児教育に係る皆様に向けて、幼稚園教育普及振興事業のひとつとして、協会報「浜私幼」を発行しております。今年度は保護者の会の皆さまの提案で幼稚園協会の保護者の会としての活動をお知らせしたり、存在意義を高める活動をしていただいています。1人の母親でもあるメンバーの皆さまが時間を作って、協会のために動いてくださることは大変ありがたいことです。ただ、年度毎にメンバーが変わりますので、その年々のメンバーでどのような取り組みができるのか検討しながら進めたいと思っています。また、保護者の皆さまにとっても、お友だちの輪が広がり地域の子育て情報を得られたりすることもあります。どうか肩ひじ張らずに活動に参加していただけますと幸いです。





令和5年度 横浜市幼稚園大会・教育研究大会

令和5年度
幼稚園大会

「心と心をつなげよう～育てよう優しい心 育もう親子の笑顔～」

公益社団法人横浜市幼稚園協会と横浜市幼稚園保護者の会の共催により、令和5年度横浜市幼稚園大会が、8月26日(土)に関内ホール 大ホールで開催されました。本年は幼稚園大会終了後、教育研究大会全体会が開催されるため、両大会をあわせて13時00分～16時20分のプログラムが組まれました。開会に先立ち、司会者よりオンライン配信を行うことの説明がありました。また、横浜市長、横浜市会議長より大会宛に花かごをご寄贈いただき、大会参加者全員で拍手をもって感謝の意を表しました。

横浜さがみ幼稚園の先生方が事前録音した国歌・市歌が流れ始まった本大会には、来賓として、横浜市長 山中竹春様、横浜市会議長 瀬之間康浩様をはじめ、横浜市会より自由民主党団長、公明党団長、立憲民主党団長、神奈川県私立幼稚園連合会会長、神奈川県各地区の幼稚園協会長、養成校の方々、横浜市こども青少年局局长をはじめとしたこども青少年局の方々にご来場いただきました。

冒頭、清水純也会長より、「横浜市幼稚園協会では学ぶ機会を多くして、先生たちが各幼稚園に持ち帰っています。そのことに感謝しています。保護者の皆様や地域の皆様にもそのことを知っていただきたく努めてい

きたいと思います。政令指定都市の中では、横浜市動きが注目されています。今後、配置基準が見直されていくと思いますし、大変期待しています。横浜でのスタートが日本の幼稚園を変えていくのではないのでしょうか」と挨拶がありました。

続いて、保護者の会 樽本万里子会長(ばらの幼稚園)より、「コロナ禍があけた後、心と心がつながることを強く思いました。つながりの大切さを思い、本大会のテーマを選びました」と挨拶がありました。

その後、保護者の会 田中千鶴副会長(善隣館幼稚園)より大会宣言の提案があり、拍手をもって採択され、あわせて保護者の会の五役が紹介されました。

5年、10年、15年、20年、25年以上の順で永年勤続表彰が行われ、表彰者385名の内、来場された教職員の方々がそれぞれのグループに分かれ登壇し、各グループの代表者が清水会長より賞状を受け取りました。

引き続き行われた市長表彰では、15年、20年の教職員の方々が登壇し、山中市長より代表者に賞状が渡されました。そして、山中市長より「横浜市独自の横浜市型預かり保育は75%の幼稚園で実施されています。また、横浜市幼稚園協会と横浜市は令和4年10月から協働して検討をはじめ、日本の私立幼稚園では初めて



▲ 永年勤続表彰



▲ 市長表彰

『私立幼稚園等における医療的ケア児受け入れのためのガイドライン』が策定され、令和5年5月に発表されました。こうした横浜市の取り組みは、先生方が日頃取り組んでいるノウハウの積み重ねがあるからこそできることだと思います」と祝辞をいただきました。

さらに、瀬之間横浜市会議長より、「横浜市幼稚園協会は研修会・講演会等、幼児教育の専門家の指導のもと、実践に基づいたすばらしい研修会を行っている」と承知しています。横浜市には、287園の幼稚園・認定こども園があり、42,000人の子どもたちが通っています。市議会として、市民の声に真摯に耳を傾けながら、

支えていきたいと思っております」と祝辞を頂きました。

最後に、受彰者を代表して辻裕子教諭（認定こども園ふじづかようちえん・ふじづかほいくえん）が「20年の月日のなかで出会った数多くの人々、特に右も左もわからない頃、丁寧に向き合ってくれたアドバイスをしてくださった先輩方を思い出します。子どもたち、保護者の皆様、家族の協力があったこと、また園長先生やたくさんの先生方との出会いに感謝いたします」と謝辞を述べられ、幼稚園讃歌が流れ、教育研究大会へと続いていきました。

(文責：鍛冶ヶ谷カトリック幼稚園 林 大樹)



▲ 清水 純也 会長



▲ 保護者の会 樽本 万里子 会長



▲ 保護者の会 田中 千鶴 副会長



▲ 横浜市長 山中 竹春 様



▲ 横浜市会議長 瀬之間 康浩 様



▲ 受彰者謝辞 辻 裕子 教諭

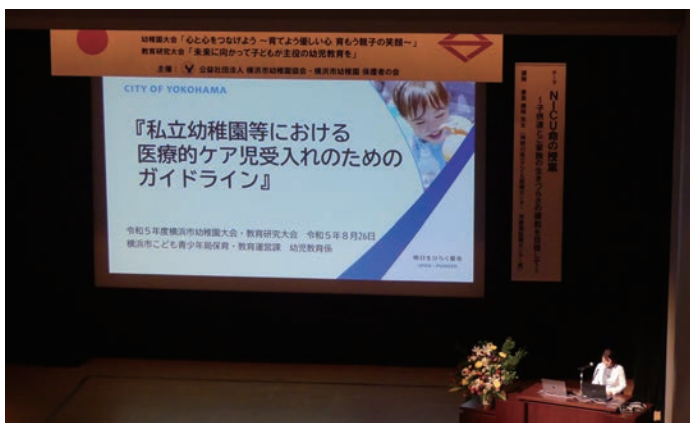
第61回
教育研究大会
全体会

未来に向かって 子どもが主役の幼児教育を

横浜市幼稚園大会に続いて行われた教育研究大会全体会では、初めに横浜市こども青少年局から医療的ケア児受入れのためのガイドラインについて説明があり、引き続き、神奈川県立こども医療センターの豊島勝昭先生から周産期医療について講演をしていただきました。

講演
1

「私立幼稚園等における医療的ケア児受入れのためのガイドライン」について



横浜市こども青少年局保育・教育運営課 幼児教育係長
杉浦 さおり

医療的ケア児が増えているなかで、令和3年9月に医療的ケア児の日常生活および社会生活を社会全体で支えることを基本理念とした法律「医療的ケア児支援法」が施行されました。この法律を受けて、幼稚園認定こども園で医療的ケア児を受入れる場合の基本的事項や支援策をまとめたガイドラインを作成しましたので、活用してください。

講演
2

「NICU命の授業 ～子供達とご家族の生きづらさの緩和を目指して～」



神奈川県立こども医療センター 周産期医療センター長
豊島 勝昭 先生

豊島先生は、25年もの間、神奈川県立こども医療センターで多くの赤ちゃんやご家族の診療に携わってきており、ドラマ「コウノドリ」では医療監修、撮影協力をされました。

以下に講演の概要を紹介します。

● 周産期医療センターのこと

病院の中でも産科というと、「おめでとうございます!」と言える喜ばしいことの多いところと思われる医療現場ですが、私たちの周産期医療センターは、生まれる前や生まれた直後に「赤ちゃんが病気になるかもしれない」と家族に伝えるところから始まります。

障害があるかもしれない子どもを育てる不安から、中絶を決断される方が少なからずいるのも本当です。生まれる前の赤ちゃんの命というのは、時として生まれてこないという選択をされてもおかしくないし、そういう選択をするのが人間なのだと思っています。周産期の医療というのは、助かってほしい



という気持ちと、リセットできないのかという気持ちとの中間にあって、そういう曖昧なところにいるのが私たちの医療だと思い、日々仕事をしています。

● 「障害」ってどういうこと?

「障害」を一言で言ったらどういうことか、答えられますか?健康な人と障害がある人とか、障害の人を支える人と障害があって助けてもらう人という二元論ではなくて、お互いに連続性があって、誰でも障害児とか障害者になり得ると思います。

少ない数ではありますが、障害のある赤ちゃんを育てたくない、連れて帰りたくないという気持ちになる親御さんもいます。私たちは医療行為で赤ちゃんを救いたいという気持ちはありますが、ご家族に「かわいいな」という気持ちが増え、湧いてきて、何とかならないかという気持ちが増え、育ていくことを邪魔しないように医療をしなければと思っています。

● 集中治療を「受けない」という選択肢

医学の進歩で命を伸ばす技術が増えた今、集中治療を受けないという選択肢を示すことも大切であると思っています。生まれてすぐ病気があるからといって、集中治療を受け続けなければならないのか、その一方で、その子の寿命を見守るという医療の形があってもいいのではないかと思います。

高い山(長生き)を願いすぎて、足元の花(日々の奇跡)に気付けないような医療にならないようにしたいと思っています。高い山を目指しながらも、今日できることや、今日喜ぶことは何かをNICUで大切にしたいと思いながら、医療をしています。

● 医療的ケア児の家族のことも、知ってもらいたい

子どもの命が加わる家族の人生も応援したいと思っています。病気の子どものことも大事ですけれど、病気の子どものとともに生きる元気な子どもや、いろいろな事情を抱えている子どもたちもいるということを知っていただけたらと思います。

病気には治せないものもありますけれども、奇跡は家族が起こせると思うところもあり、奇跡と気づいた人のところに起きます。ご家族が積み重ねていく日々を一緒に喜び、それぞれの願いや決断を応援し、子どもがご家族の中で暮らせる方法を病院も考えていきたいと思っています。

昔だったら救えなかった命が、医学の進歩で救えるようになりました。それは喜んでいいことですが、命が救えるようになったからこそ苦勞する家族もいます。命を救うということはどういうことなのか、とても難しいです。

NICU では、治療ももちろんですが命を巡る話し合いを多くしています。答えはないけれど、命はそこにあります。

赤ちゃんのご家族の幸せとは何かということを考えながら、それぞれの支援をできたらと思っています。

そして、NICUを卒業する形としては、①後遺症なき生存、②死亡、③病気や障害とともに生きていくことがあります。それがNICUの最終ではなくて、その後の赤ちゃんご家族の人生に寄り添いたい、それが私たちの仕事の目標です。

● 豊島先生の考える「障害」とは

私が考える障害というのは「街の中での生きづらさ」であると思います。子ども自身やご家族が街の中で嫌だなと感じたり、辛さや孤独感を持ったりしたら、それが障害なのかと思います。私たちは少しでもそういう「障害という後遺症」を減らそうと思っています。

● 発達障害は、こじらせなければうまくいく

発達障害があってもこじらせなければ、子どもたちは成長していきます。こだわりがあってもそれが集中力となったり、ちょっと気がそれるということが、活動力がある人になります。大人の発達障害の場合は、街の中で生活している人もたくさんいます。

発達障害をこじらせないために大事なことは、①その子の特性を理解し、困ったときの対応を理解すること。②良いところを見つけ、前向きに育児すること。③多くの人に自分の子どものことを伝え、頼れる人になることです。

依存しすぎず、多くの人を頼っていくことができれば、発達障害があっても二次障害は起きにくくなります。こういう、ご家族の養育力が高まる支援を私たちは目指しています。

● 子どもに優しい街づくりのために

子どもたちを応援してくださる皆様と、こういうご家族を支えることを今後も一緒に考えていけたらと思います。医療的ケアがあっても、幼稚園などに通うような人たちの生きづらさが減ったら、どの子にとっても生きづらさは減ると思います。そういう子どもに優しい街を、横浜で作っていきたいと思います。(文責;飯島東幼稚園 須藤伊佐夫)



神奈川子どもNICU
ホームページ



豊島先生著書
「NICU命の授業」

令和5年度 横浜市幼稚園新規採用教員研修会

横浜市こども青少年局保育・教育支援課
小泉 一美

令和5年5月24日(水)と8月3日(木)・4日(金)に「令和5年度 横浜市幼稚園新規採用教員研修会」が開催されました。新規採用教員の活気や意欲が伝わり、とても実のある研修になったと感じます。

第1回 5/24

第1部

第1回の第1部は、採用2年目の教員3名に、1年を振り返った体験談を話していただきました。玉川大学教授の田甫先生を交えてシンポジウム形式で行われた体験談は、悩みや不安を抱えながらも、周りの先輩方に支えられて、過ごした1年前の日々が話されました。



第2部

第2部は、グループディスカッションです。同じ1年目の先生同士で語り合えることがとても有意義で貴重な時間だったようです。緊張もほぐれ、笑顔で語り合う先生方が印象的でした。

先輩の話を聞いての感想

保育には正解がないため、失敗を恐れずに様々な保育方法に挑戦していくことが大切だという話が一番印象的でした。一人ひとりの子どもや状況によっても声掛けの仕方や関わり方は異なると思うので、一度うまく行かなくても諦めずに日頃からの積み重ねを大切にしていきたいと思いました。

第3部

第3部は田甫綾野先生にご講演いただきました。「遊びは学びだけではなく人間関係や精神的にも大きな影響を与えている」「子どもが落ち着いて遊べる環境を作ること、遊びのまとまりとして子どもたちを捉えることができ、個々の動きを見ることへつながってくる」「『こうでなければならない』にとらわれることが教師のプレッシャーになり、子どものマイナス評価や否定的な見方につながる」という考え方や、「環境を整えていくことでまとまっていく」というイメージがとてもわかりやすく、新採用の先生方にも温かいメッセージとして伝わったのではないのでしょうか。

第2回 8/3

1日目 [シンポジウム・グループディスカッション]

第2回は2日間にわたっての研修でした。1日目に行われたシンポジウムでは、経験を積まれた先輩の先生方に「今 伝えたい 私の保育」というテーマでお話していただきました。

午後はグループに分かれてグループディスカッションです。その後ポスターセッションも行われ、参加者の方々が皆さん笑顔で取り組んでいたのが印象的でした。



第2回 8/4

2日目 [実技研修]

第2回の2日目は選択実技の研修でした。「リズム」「身体表現」「造形」「自然」の4分科会に分かれ、研修が行われました。それぞれに参加した方の感想からも、たくさんの気づきや学びがあったことが分かりました。



「身体表現」に参加した感想

実際に自分が体験することで楽しさを感じ、今後の保育に取り入れたいなと思いました。ゲームを通して会話をすることでいつもより緊張することなく話すことが出来ました。なによりも笑顔の大切さを改めて感じました。何事も笑顔で楽しく保育に関わっていききたいと思います。

「造形」に参加した感想

頭で考えてしまうことが多く、子どものように無心で無意識で柔軟に表現することがなかなか難しいと感じました。それと同時に子どもの表現力というのは本当に素晴らしくて、磨いていかないといけないなと思いました。



今回の研修で学んだことを大切にしながら、さらに学びを深めていただけることを期待しています。こども青少年局のその他の研修は、横浜市HP「保育・教育の質向上>幼保小連携>研修・研究情報」をご覧ください。

子育ては、 ピンチの連続!?



横浜市幼稚園協会 子育て教育相談員
公認心理師・臨床心理士

大森 由紀

栗にカボチャにサツマイモ。長引く暑さに参りながらも、野菜売り場やスイーツのお店などで秋の味覚を見かけると、季節の移り変わりを感じられますね。この夏は各地で盆踊りなどが再開され、久しぶりの夏祭りを楽しんだ方も多かったのではないのでしょうか。

秋に向けても、地域では収穫祭やふれあい行事、幼稚園や学校では運動会や遠足・発表会など、制限なしでの開催を予定しているところが多いようですね。ただ、いろいろな活動や交流を制限されていた時期が続いていたため、いざ再開されても「あれ? 前はこうやっていたんだっけ……?」と立ち止まってしまったり、「こんな感じでよかったかしら……?」と不安にかられる場面もあるのではないのでしょうか。ちなみに私は、日々の買い物は非接触でお会計が済ませられる電子マネーに慣れてしまっていたために、久しぶりに遠出した場所でレジに並んでから現金対応のみであることに気づき、慌ててお財布の中身を確認する、ということがありました。もうちょっと多く買い物していたら商品を棚に戻しにいかねばならないところでした、あぶない、あぶない……。先日、数人の友人と集まったときにこの話をしたところ、似たような経験をしたことがある人が何人かいて、「あわやピンチ!」のこの話はその場で笑い話となりました。そのときに、その場にいた友人の一人が、そういえば、面白い本があるよ、と教えてくれたのがこの絵本、その名も『大ピンチずかん』(小学館)です。



「大ピンチずかん」鈴木のりたけ (小学館)

そんなことまで!? と思うようなことまで、大小さまざまな“ピンチ”が、その“なりやすさ”や“ピンチレベル”とともに紹介

『とんでもない』(アリス館)など数多くの絵本をかかれている鈴木のりたけさんの本なので、すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、今、小さなお子さんのいるご家庭で人気なのだそうですね。中をひらいてみると、ぎゅうにゅうがこぼれた大ピンチ、から始まり、パックのジュースのストローがとれないとか、そんな

されています。描かれているのはどれも確かに“ピンチ”なのですが、思わず「ある、ある」とうなずいてしまうものばかり。人気があるのもうなずけます。ピンチというのは、一人で体験しているとドキッとして心臓がキュッと縮こまりがちですが、“自分だけじゃない”とわかるとそれだけで気持ち楽になったり、見方を変えるゆとりが持てるものなのかもしれません。

この絵本のもうひとつすごいと思うところは、ピンチ! という目にはみえない気持ちの部分を、“なりやすさ★★★☆☆”とか“大ピンチレベル76”のように、形や数字で表しているところ。急いでいる時にかぎって子どもが食事をこぼしたり、洗濯しようとしたらズボンのポケットから砂がザッとでてきたり、子どものバッグの中からいつのものかわからないパンのかけらが出てきたり……。実際にはキーっとなったり、トホホ……となったり心中穏やかではられないと思いますが、「ああ、このピンチは、なりやすさ★4つ……」「これは、ピンチレベル65、大変だ!」のように受け止められると、胸のモヤモヤも少し扱いやすくなるかもしれませんね。

この本の終わりに近づくと、ピンチはついにレベル100を迎えます(どんなピンチかは読んでのお楽しみ)。作者の鈴木さんはこういいます。「きみが おおきくなって まわりの せかいが ひろがるほど 大ピンチも どんどん やってくる。」と。大人はなるべくピンチを招かないように先回りしがちですが、子どもが育つ道のりに、アクシデントはつきもの。私たち大人も、ここ数年狭まっていた行動範囲が広がりを取り戻すとき、思わぬピンチに遭遇するかもしれません。この秋は、お子さんと一緒に、“せかいのひろがり”と“日常に転がるピンチ”を楽しんでみませんか。こんなピンチは私だけ……? ママ友に聞いてみたいけど恥ずかしい……。そんな時にはお電話ください。一緒にそのピンチについて考えます!

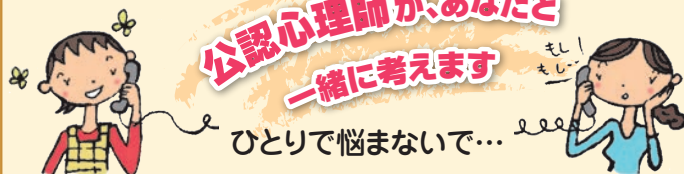
子育て教育相談室

【相談日】

【受付時間】

第2・4火曜日・毎週金曜日
(年末年始、祝祭日を除く)

10時~12時 / 13時~15時



相談専用ダイヤル

045-534-8837

公益社団法人 横浜市幼稚園協会
<https://www.kids-yokohama.or.jp>



相談の事前予約は
こちらから

令和5年度 保護者の会役員紹介

副会長 田中 千鶴様
(善隣館幼稚園)

子どもたちの未来のために、
今できることに全力で
取り組みます。

副会長 吉田 有加様

(認定こども園しのはら幼稚園)

子どもたちとご家族の笑顔が少しでも
増えるように、引き続き、微力ながらも
精一杯務めてまいります。

監事 平沼 里海様
(杉之子幼稚園)

沢山の出会いがあり、新たな扉が
開いたようで充実しています。
1年間、子どもの笑顔につながる
活動に取り組みたいと
思います。

会長 樽本 万里子様
(ばらの幼稚園)

みなさまに、
保護者の会のことを
たくさんお伝えできたら…
と思っています！

会計 安西 真依様
(平和幼稚園)

保護者の会の活動を
より多くの方に
知っていただければ★
と思っています。

保護者の会 公認キャラクター紹介

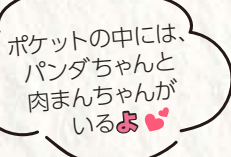
よっぴいとは

保護者の会の活動をもっと知ってもらうために誕生した、
保護者の会公認キャラクターたちをご紹介します！

今後はよっぴいと共に活動します♪



よっぴい



ポケットの中には、
パンダちゃんと
肉まんちゃんがい
るよ♡



よっぴいのおともだち

よっぴいの生態

- ★ 耳は、市内の有名ホテルの形にそっくり。生粋の浜っ子。
- ★ 誕生日：2023.6.8.
- ★ 幼稚園児の妖精 (性別非公開)。
- ★ いつも語尾に「よ」をつけて話す。
- ★ 夢：みんなに会いに行くこと。
- ★ 困っている子や泣いている子がいたら、どこからともなくやってくる「だいじょうぶだよ」と言っている。

わくわく★子育てセミナー 報告

9月8日、わくわく☆子育てセミナーが開催され、コジマジックさんに「収育～お片づけができる子どもにする方法～」をテーマにお話いただきました。

台風13号の影響で外は大雨でしたが、会場内は笑いあり学びありの熱気溢れるセミナーとなりました。

お片づけは一生必要な事。しかし、学んだ事がないので苦手な人が多い。まず親が学び、子どもたちに正しく伝える事が大切とお話があり、その後具体的に学びました。

お片づけの基本は3ステップです。

- ①「出す」…とにかく全部出す。
- ②「分ける」…今、使っているモノ、使っていないモノで分ける。迷ったら物に1年の賞味期限を付ける。
- ③「しまう」…使っているモノだけを使いやすい場所にしまう。

※子どもには「出したら戻す」を伝える。

1番印象に残ったのは、子どもに対して根気を持って伝えていこうという言葉でした。親も習ったばかりのお片づけ、子どもがすぐに出来るわけではありません。怒らず、前向きな言葉がけで、親子で習慣化していきたいですね。

編集後記

今年の5月に新型コロナウイルス感染症の扱いが第2類相当から第5類感染症に変更になり、幼稚園や社会が以前のよ
うな活気に満ち溢れる景色に戻りつつあります。2学期には運動会や発表会等の行事開催を予定されている園も多くある
ことと思います。子ども達の心や体、社会性が大きく成長する時機でもあります。私たちはその成長を後押しできるように
誠心誠意努めていきたいと思っています。
(広報部 安藤 安雄)